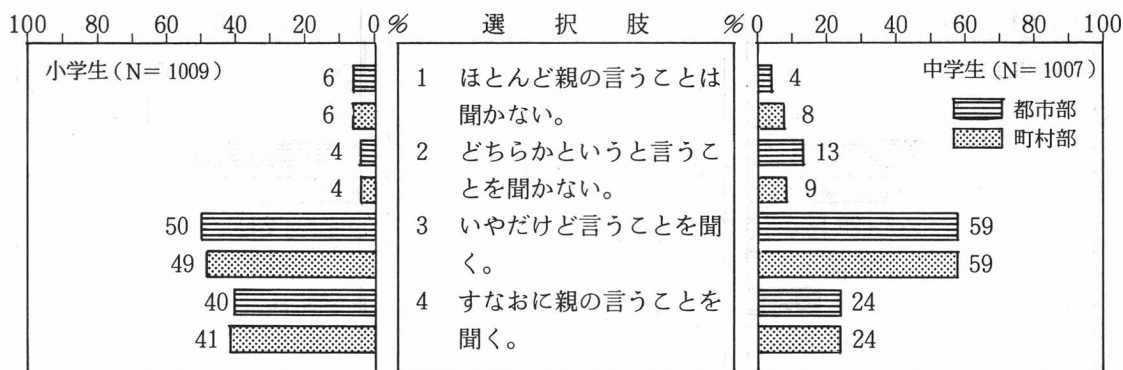


耐性特性〔感情・情緒（適応力）〕 家庭生活の場面

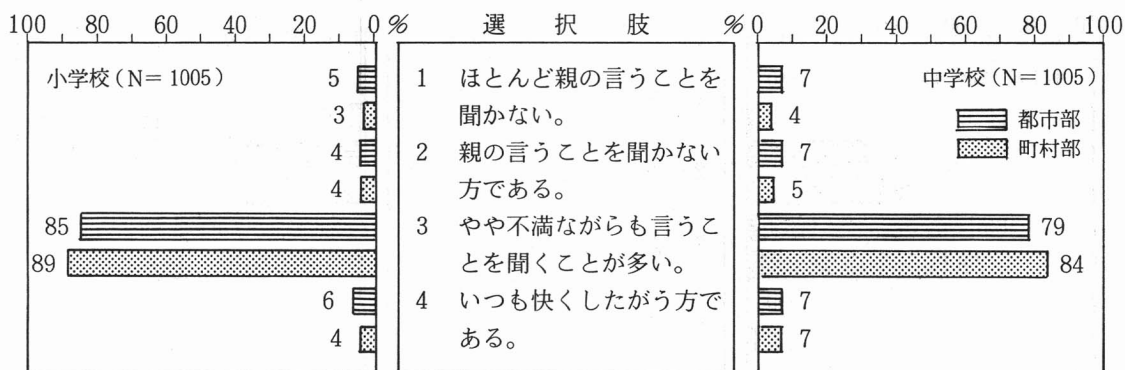
〔児童生徒〕

問い 日帰り旅行などで、あなたの行きたくない所に家族全員で行くようになったとき、あなたは親の言うことを聞きますか。



〔保護者〕

問い 親の都合で、子どもの予定を変更させなければならないとき、あなたのお子さんはどんな様子ですか。



児童生徒に対する設問は、「家族で行くようになったとき」という制約はあるが、選択肢3、4のように「言うことを聞く」という回答がほとんどである。保護者もまた、選択肢3と4の回答を合計すると約90%で、子供の数値と大体一致し、親からみても望ましい姿であるとしている。

ただし、中学生は、約20%が「言うことを聞かない」とし、やや適応力の乏しさがみられる。更に児童生徒と保護者の選択肢4を対比してみると、両者の間には約20～30%の開きがある。子供は「自分は素直に言うことを聞く方である」という

意識をもっていても、親は必ずしもそれが「快く言うことを聞いている」とは受け止めていないとみることができる。それは、児童生徒の「いやだけど言うことを聞く」、保護者の「やや不満ながらも言うことを聞くことが多い」への回答が、それぞれ第1位になっていることからもうかがい知ることができる。これらの問題はあつもの、上記の設問の回答からは、児童生徒の適応力は望ましいものとみることができ、予想とはほぼ一致する。しかし、次のページの学校場面における設問の回答結果には、不適応の問題が表れてきている。